

令和6年度子どもの力と意欲を伸ばすキャリア教育実践交流協議会

目的

各小・中学校及び義務教育学校において総合的な学習の時間及び特別活動を推進する立場にある教員等を対象に、これからの時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力に関わる講演・説明・協議等を行うことにより、キャリア教育の充実及び大分県版キャリア・ノートの活用促進を図る。

期 日 令和6年 7月23日 (火)

会 場 ビーコンプラザ レセプションホール

参加者

- ・ 特別活動または進路指導を推進する立場にある教員等
- ・ 総合的な学習の時間を推進する立場にある教員等

内 容

説明 「子どもの力と意欲を伸ばすキャリア教育について
～子どもの自己理解が深まるキャリア・ノートの活用～」

協議 自身の変容や成長を自己評価できるキャリア・ノートの活用方法について
～2学期に取り組む授業展開について考える～

講演 「キャリア教育の視点を踏まえた総合的な学習の時間の実践について」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 齋藤 博伸 氏
国立教育政策研究所教育課程調査官



[講演の概要]

- キャリア教育の視点を踏まえた総合的な学習の時間における単元づくり
 - ・ 今、求められる力を高める総合的な学習（探究）の時間の展開
 - ・ 3つの視点（児童生徒の興味・関心、教師の意図、教材の特性）から児童生徒の姿を思い描く
 - ・ 対話的な学びの3つの価値
（情報がつながり構造化する、多様な情報を収集する、新たな知を想像し解決に向けて行動する）
- 単元を構想する教材研究について
（自発性・能動性／指導性、概念的な知識、地域・社会貢献、地域・専門家との関わり）

「未来をえがくキャリア・ノート！」の効果的な活用について(提出資料より)

【記入する時期や場面の設定の工夫】

- ・年度初めと終わり、学期初めと終わりに記入する時間を設定している。
- ・中学校1年生と3年生での変化に気付かせるなど、自己を振り返る時間をとる。
- ・「あこがれの人」を書く時に、他者の考える「あこがれの人」について聞く場を持つ。
- ・職業人講話や職場体験、体験入学等の振り返りの時間に記入している。

【子ども自身の変容や成長を自己評価させるための工夫】

- ・学年初めに1年前の自分との出会い直しをさせている。
- ・これまでの変容を振り返り、今後の自分にメッセージを書いた。(例)中学2年時では、小学校からの自分の変容を振り返り、16歳(高校生)の自分へ手紙を書く。
- ・中学校1年生の学年末には、キャリア・ノートで1年間を振り返り、自分の経験を基に、次年度入学してくる小学6年生に向けた応援メッセージをカードに書いて、実際に小学校に持っていった。
- ・行事を終えるごとに全体で振り返り、がんばったことや次回に生かしたいことを記録させておき、各学期の振り返りの時にその記録を見ながら書くようにしている。
- ・職場体験などの行事等においてキャリア・ノートを活用し生徒自身の成長や変容を確認し進路学習につなげた。
- ・学校でキャリア・ノートの内容に合わせた、オリジナルのキャリアファイルを用意している。各行事や外部講師の講演の後の記録はキャリアファイルに残し、その内容を基に学期末にはキャリア・ノートに記入している。
- ・特別支援学級の児童が自身についてゆっくり振り返るツールにしている。内容が統一されているので、過去と比較して変容を感じることができる。

【保護者等との連携のための工夫】

- ・参観日までに子どもたちが記入して、授業参観当日に保護者に書いてもらうように全体で時期を統一してる。
- ・学年初めの懇談会で、キャリア・ノートの活用についてお知らせし、「大人からのメッセージ」欄への記入について周知を図っている。
- ・「大人からのメッセージ」欄は、機会があれば地域の方などからもコメントを書いている。
- ・保護者面談の際にキャリア・ノートを活用している。

【校種間や学年間などで指導の共通理解を図るための工夫】

[校種間]

- ・小学校卒業時に中学校の目標を立てさせて中学校に引き継いでいる。
- ・小学校の先生からのコメントを参考にしている。
- ・高校へ送るときになるべく情報がわかるように具体的に書かせている。
- ・学期に1度の小・中学校意見交換会の中で、共通理解を深めている。

[学年間]

- ・記入したページの写真を生徒に撮影させ、ロイロノートを使って、職員全体で共有し、生徒理解を図っている。
- ・学期ごとの目標を全校同じ形式のワークシートに記入し、各学級で掲示している。
- ・前担任のコメントなどを見ることで、子どもの様子や指導の方針を把握している。



実践交流協議・講演を終えた参加者のアンケートより

キャリア・ノートの活用方法について

- ・自己理解に加えて、友だちとの対話による他者理解、人間関係づくりプログラムへの活用、総合的な学習の時間での振り返りを蓄積していった、それを基にキャリア・ノートへ総括的に記録を残していけるのではないかなど、グループ協議で案が出たので2学期以降少しずつ取り入れていきたい。
- ・クラス活動とキャリア・ノートの活用を連携させ、より効果的な運用方法を見出す重要性が確認できた。
- ・他校の取り組みを知り、振り返りワークシートの検討・開発に役立った。
- ・キャリア・ノートに関しても「振り返りの延長」という受け止め方だったので、今後は「子どもたち自身の自己理解や成長の記録や自己実現への見通し」として、また「学校と保護者の児童理解について大いに役立つもの」としてしっかり受け止め、活用していこうと思った。
- ・大人のコメントのところで、教員が書くことが多かったが、他の学校の先生の実践であった保護者や地域の人に書いてもらうなどの方法を実践してみたいと思った。

キャリア教育の実践について

- ・キャリア教育の視点を踏まえた総合的な学習の時間の中で、子どもたちが自信を持って自分の探究課題を見つけて課題解決に向かえるような指導をしていかないといけないと改めて感じた。
- ・生徒自身が課題を見つけ、その課題を発展させていく手立てが必要であることを学ぶことができた。生徒が話し合う時間、活動する時間、課題を設定する時間を大切にしていきたい。
- ・教科等横断的な指導ができるように、基礎的・汎用的能力が、各教科どこの単元に当てはまるのかをしっかりと明示して授業を行っていきたい。

講演について

- ・キャリア教育を特別活動の要として位置づける意義や、教育活動全体の中心として考えられる内容がわかりやすかった。
- ・齋藤調査官の講義から、総合的な学習の時間のキャリア教育としての在り方を学び、自校の実践に活かすための視点を得た。
- ・総合的な学習の時間の探究の進め方、活動がすすまないときは見直す必要があること、3回転の意味など考えるいい機会になった。
- ・探究的な学びを進めるために、子どもたちの自発的な「知りたい」「調べたい」という意欲を大切にすることで、能動的な学びになることが分かった。
- ・総合的な学習の時間の中でのキャリア教育の在り方など、中学校の具体的な内容だったが、小学校にも生かせると思った。今日学習したことを職場に持ち帰り、みんなで、協議していきながら、少しでも実践していきたいと思った。
- ・「今、求められる力」や「生き方」につながる探究の学びを構想する際のポイントを凝縮して教えてもらえた。資料で紹介されたNHKのコンテンツなどいろいろ視聴して、探究したい。

